

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812610		
法人名	有限会社グループホームさんぼみち		
事業所名	グループホームさんぼみち中仙		
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1-1		
自己評価作成日	令和3年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日ラジオ体操、散歩、手足の運動を実施し、利用者様の筋力低下防止に力を入れております。天気の良い日は、外で日光浴を兼ねながらラジオ体操を行い、色とりどりの花を見たり、家庭菜園のミニトマトを収穫したりと季節を肌で感じてもらえるよう支援しております。
一人ひとりが出来る事、やれることに参加してもらい、やりがいや達成感を味わい生きがいが見出せるよう、個別支援に取り組んでいます。食前の口腔体操を行う当番には各利用者様を担当割りし、一人ひとりに順番が巡るようにしており、役割を持つことで意欲低下防止に繋がっております。また、レクリエーションも日替わりで行いながら楽しみを持った生活を送ることができるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

縫製工場を改装した建物の廊下はとにかく広く、パン喰い競争や玉入れ等々で楽しんでいる。広大な田園が広がり、すぐそばを新幹線こまちが走る。避難訓練に誘導補助として近隣住民の参加を実現している。夜間に火災が起きた場合は、地域の若い家族も駆けつけてくれるとのこと。毎年中学校の学校祭に招待されている。また、小学校で栽培した大量の大きなサツマイモが届き、スイートポテトを利用者と共に調理した。地域住民からもモロヘイヤ等のおすそ分けがある等、地域との交流が盛んである。地区の盛大などんぱん祭では幼稚園の発表や出店が楽しみとなっている。利用者と共に会話をしながらおやきや餃子を作ったり、誕生会には手作り弁当やらし寿司、クリスマスにはデコレーションケーキ等を作ったりと、全てを手作りで対応している。カラオケが得意な利用者が、誕生会や敬老会で生き生きとマイクを持ち自慢の喉を披露する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は確認のため、職員が毎日声に出し読むようにしている。理念の中の体力維持向上に力を入れて毎日ラジオ体操、散歩、手足の運動を欠かさず行っている。	開設当初に作成された「広大な田園の中で、」から始まるホーム独自の介護理念は、15年が経過した今でも、現状に即したホームの理念として大切に引き継がれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域の行事や敬老会が中止となり、地域との繋がりを持てなかったが、近くの小学校から毎年のようにさつまいもを頂いており、お礼の手紙と写真などを届けることで交流を図っている。	毎年中学校の学校祭に招待されており、全利用者が訪れ、生徒の演芸を楽しみ、昼は恒例のうどんをごちそうになる。中学校の吹奏楽部の練習する音がホームに聞こえる程の距離。小学校で栽培した大量の大きなサツマイモが届き、今年はスイートポテトを利用者と共に調理したとのこと。子供達への礼状に写真を添えて届けている。地区の盛大などんぱん祭りでは、幼稚園の発表や出店が楽しみとなっている。散歩コースで顔なじみになった近隣住民からモロヘイヤ等の野菜のおすそ分けがあったり、スタッフの家族からも大好きな山菜が届いたりと様々な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の座談会などに出席してもらいながら理解を求めたり、支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、書面のみで開催だったが、出席者の方には電話で意見を伺い次の課題に繋げるようにしている。また、前回の報告書も届け、確認してもらっている。	避難訓練への地域住民の協力体制が課題であるとの前回の目標達成計画を受け、地域の座談会及び運営推進会議へ協力依頼を要請。結果、前回の避難訓練に近隣住民2名が誘導に協力してくれている。2名とも運営推進会議のメンバーである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	依頼があった調査などには速やかに対応している。また、コロナウィルスやインフルエンザ予防の助言を受けながら対策を話し合い、感染防止に努めている。	以前は包括支援センター、現在は介護保険事務所の担当者が運営推進会議に参加している。生活保護受給者が9名中7名であり、生活保護担当者との連携及び協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回委員会を開き、身体拘束について検討している。また、内部研修を通して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針が整備され、身体拘束適正化検討委員会を3か月に一度以上開催している。結果は全スタッフに周知、年2回以上の研修実施が確認できた。対象者は現在皆無である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、周囲で見過ごされていないかを、常に注意深く観察しながら防止に努めている。法令遵守も申し送り時に確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を受けている方が入居されていることにより、毎月の訪問時には必ず職員が同席し体調や近況について報告している。新任の職員も含めて今一度、制度について学ぶ機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書を読み上げて内容を説明し、疑問や不安が残らないようにしている。疑問についてはその場で理解して頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場では、家族・利用者からの要望が出にくい時があるが、終わった後に世間話の中で意見・要望を頂く事があるので、それらを運営に反映させるように努めている。	「姉が利用しているが、自分も高齢化し身体機能の低下が不安である。」と家族より相談があった。利用できる多様なサービスの存在を丁寧に説明し、安心していただいたとのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際には、各職員の意見や提案を聞く。不在だった職員からも後日意見を出してもらう事により、共有し反映させることにつなげている。	スタッフ本人や家族の事情を考慮し、毎月休日の希望日を提出してもらい、出来る限り希望に添った勤務表を管理者が作成している。居心地のいい職場であり、異動もなく、勤務年数が10年を超えるスタッフが多く、職場定着率が高い。必要に応じ、管理者が代表者へスタッフの意見や要望を伝えるとのこと。	今後とも、スタッフの専門性を高める取り組みを継続するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員、個々の能力を引き出しながら給与水準や労働時間について理解を得て決定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全職員が研修などを受ける機会を多くして、個々の力量アップに努めている。また、新任の職員とベテランを組み合わせ指導しながらレベルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナ禍で実現できていないが、今後検討し交流の場を持ちたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で、本人が困っている事、不安な事、要望に関して詳細な情報を得るようにしている。また、入居後も積極的に話を聞く機会を設け不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、家族や本人の思いを十分に聞き、同意を得ながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員と利用者だけの関係性ではなく、出来る事はやって頂きながら、役割感と意欲を失わないよう日常の暮らしを共にする者同士の関係を大事にしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを通し近況報告をお伝えしているが、些細な事でも電話連絡し、要望があれば電話でお話ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や近隣の方などが面会に来られた場合は、居室でゆっくりお話しできるように配慮している。また、場所との関係も途切れないよう受診時の行き帰りに地名や店名を伝える事もある。	コロナ禍による外出の規制の影響を少しでも軽減するようにしたりと、定期通院の際に実家周辺をドライブし地名を伝えたり、以前勤めていた職場や馴染みだった店を車窓から眺められるようにしたりと、工夫している。面会が制限される中、ホームより家族等から本人に電話をかけて欲しいと依頼することで、本人が満足し落ち着きを取り戻すとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の出来る事や利用者同士の関係を大切に、席替えも時々行い孤立しないよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、引き続き必要であれば情報提供、相談事には応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、利用者が感じている事や要望を聞取る。また、家族の意向や希望などはモニタリング時に聞き取りをしている。	カラオケ好きの息子が自宅の敷地内にカラオケボックスを設置した利用者は、その影響でカラオケが得意であり、誕生会や敬老会で生き生きとマイクを持ち自慢の喉を披露している。自分好みの洗顔クリームや自分好みの洋服を以前はスタッフが同行し購入に出かけたが、コロナ禍を考慮し、スタッフが希望を聞いて定期的に購入に出かけている。大豆移し替え競技を楽しんでいるが、皆さんとても器用で上手とのこと。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントの情報を基に、入所後の生活状況や身体状況、本人の思いなどを日々のやり取りから得て記録をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別計画書(3)に各々の生活の流れが示されている。定期的なアセスメントにて現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で利用者の状態を共有し、課題を見つけ、利用者がより良い生活を送れる手助けが出来るよう目指している。家族の協力も得て、状況が変化した際にはケアプランの見直しを行っている。	家族へ電話した際、さりげない会話の中から家族の気持ちを汲み取り介護計画に反映させている。日常業務の中での情報収集の他に、朝の申し送りの後に個別にスタッフから意見を求めている。ケアマネジャーが原案を作成し、サービス担当者会議を経て、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子が分かり、ケアプランの内容に沿った記録をしている。朝の申し送りなどで状態の変化が報告された時にはプランの見直しに役立てている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所、消防署などの緊急施設、かかりつけ医、近隣住民など必要に応じて利用、協力を求め、利用者が安全安心の生活が出来るよう努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診や訪問診療を行い、体調の変化に応じて対応している。処方薬についても不明な事、相談があればかかりつけ医や薬局と連絡を取り合い、健康維持に努めている。	毎月内科医の訪問診療が受けられる。残薬の確認のためかかりつけ薬局の薬剤師が医師と共に訪問してくれる。薬局が薬を配達してくれるが、ホームの都合でスタッフが受け取りに行くこともある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同系列のショートステイの看護師からアドバイスや情報を得たり、代表取締役とも意見交換し、早めの対応に努めている。また、かかりつけ医にも相談するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での生活状況を看護師に情報提供して、入院中は医療機関や家族から情報を得て早期に退院できるよう連絡を取り合うよう努めています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、具体的な方針を打ち出し、出来る限り現実的なものにしていく為に、多方面の関係者と共に支援していきたい。	重度化した場合は、ホームで対応できるギリギリまで支援したいとの意向がある。終末期は、家族の意向や医師との連携のもと、医療機関への移行が考えられる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応できるよう、内部研修で全職員が学ぶ場を作っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。消防署員の立ち合いしてもらった際には助言をいただき参考にしている。今年はコロナで参加いただけなかったが、近隣住民の方からも避難訓練に参加いただいていた。	1階がショートステイ、2階がグループホームであり、2階であることが避難の際の課題とのこと。1階は現在使用されていないが、事業種別の違いによりグループホームを1階に移すことは容易ではない現状にある。避難訓練に誘導補助として近隣住民の参加を実現している。夜間の火災には、年齢の若い家族からも駆けつけるとの心強い言葉をいただいている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー保護にも十分配慮し対応している。特に排泄に関した失禁時には、声かけの際の言葉遣いに配慮しながら対応している。	「職員の心得」が策定され、言葉使いは友人感覚ではなく、愛称や呼び捨ては禁止、基本さんづけ、公私の区別等が定められている。スタッフを名前で呼んでくれる利用者は2名、他の利用者の中にはなぜか看護師さんと呼ぶ人がおり、お世話してくれる方と慕ってのことかと思われるとのこと。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がしたいことを日々の行動や会話などから希望等を聞き出し、自己決定できるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた生活ペースを大切に、入浴や食事、好きな事等を把握し、穏やかに過ごして頂けるようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度から始まり、身だしなみの不十分な際には声かけにて促しをする。また、自身で行えない方には支援している。定期的に訪問してもらい散髪や顔そり等の支援をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には利用者の好みを把握して作成するように努めている。おやつ時には時折、利用者と一緒におやき作りに挑戦している。食事の準備や片付けには利用者も積極的に参加してくれる。	年越しには、茶碗蒸し、エビ天そば、黒豆やきんとん、煮もの等を提供した。元旦は定番の納豆汁を、元日の昼食は前もって作っていたおせち料理を提供している。誕生会では手作り弁当、クリスマスにはデコレーションケーキ等々、全てを手作りしている。おやきや餃子も利用者と共に会話しながらやはり手作りしている。食事はいつも完食とのこと。外食は回転寿司やファミリーレストランへ出掛けている。肉が苦手な利用者が1名おり、代替で魚料理を提供している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉や魚、野菜をバランスよく取り入れた献立を意識している。水分不足気味になってしまう方には、一人ひとりの体調や持病を考慮した上で、昔好んで飲んでいたドクダミ茶等の提供をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の都度声かけをしている。入れ歯装着の方には外してもらい、うがいや入れ歯の洗浄と清潔維持に努めている。歯がぐらぐらしていないか等確認をして、必要に応じて歯科受診をしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの方が自立していて、トイレ誘導が必要な方には訴え時以外でも定時で誘導、介助をしている。一人ひとりの尿量に応じたリハビリパンツやパットを採用している。	立ち上がりに解除を要する方が1名いる。他の方は確認は必要だがほぼ排泄は自立している。頻尿感が強く、夜間のみポータブルを使用している方が1名。バイタルチェック表に排泄の項目も採用し、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、排泄の自立に向けた支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を確認。食物繊維のある食材を食事に取り入れ、歩行運動や水分補給を行っている。それでも便秘になってしまう方には、薬による調整を心掛けている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、週2回の定期的な入浴を行っている。体調不良を訴える方には無理せず清拭を行っている。	水・土の午後が入浴時間、1人あたり最低でも週に2回は入浴出来るよう設定している。現在のところ入浴を拒否する方はおらず、全利用者が入浴を楽しみにしている。全スタッフが女性であり、現時点では異性介助を嫌がる様子はないとのこと。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	春から秋の天気の良い日には布団を干したり、外に出て体操をしたり散歩を行っている。冬には施設内の広い廊下を使い、1年を通し体操や歩行運動を行って日中の活動量を多くして夜間よく眠れるよう配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも処方内容が分かるようにお薬ファイルを準備している。誤薬や飲み忘れ防止にも全職員が緊張感を持ち服薬支援をしており、記録も徹底している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前の口腔体操の号令かけを利用者が日替わりで担当するように予定表を作成しており、役割を持つことで意欲低下防止の効果が見られている。コロナ禍で外出できない分、施設内で行うレクリエーションを楽しんでいただけるよう工夫している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	例年であれば地域のお祭や行事に参加していたが、今年は出来なかったので施設内でそれに代わる行事を考えて実施した。	年間の外出計画が生まれ、地域のどんぱん祭りや長野の祭り、5月にはスキー場の黄桜並木、道の駅の秋祭り等々へ車3台で出かける。コロナ禍を踏まえ、受診の帰りに八乙女ヘドライブし車窓からの景色を楽しんだり、ホームから見える桜並木を満喫したりしている。外出先でのトイレ探しがドライブには欠かせないとのこと。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設の方針としてお金の所持を禁じている。利用者の体力低下に伴い、店内を歩いて回れず難しくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合には、いつでも家族や知人に連絡が取れるように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に温度調節をこまめに行っている。ホールには季節に合った掲示物や利用者の作品などを飾り、居心地よく過ごして頂けるよう工夫に努めている。	縫製工場を改装した建物はとにかく広く、廊下の幅は他に類を見ない程であり、パン喰い競争や玉入れ等々で楽しんでいる。保育園の運動会であれば十分な広さと長さである。当日は懐かしい昭和の演歌が流れていた。広大な田園が広がり、すぐそばを新幹線が走る風景や中学校の吹奏学部の練習の音が聞こえる。環境が大好きとの声がスタッフから聞かれた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの自分の席で利用者同士が会話をしたり、テレビを観たり、音楽を聞いたり気分転換をしながら過ごして頂き、時には席替えを行っている。浴室近くの窓際にはベンチがあり、そこで一人の時間を楽しむ利用者もいる。ホールにもテーブル席だけでなくソファを設置している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れ親しんだ家具などを用意して頂き、家族写真や馴染みの物を配置することで、環境の変化を少なくし居心地がいいと思える空間作りに努めている。	タンスとベッドが備え付けられている。2階がグループホームのため階段の他にエレベーターが設置されている。各居室の暖房は火災の危険性を考慮した器具を採用している。窓から広大な田園が堪能できる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下は安全に歩行ができるように整備し、転倒の誘発となる物などは置かないようにしている。「1日の流れ」は大きく書き誰もがわかり易く掲示している。		